

【市民講座】サリン事件冤罪の構造^{えんざい}

<講師紹介>

こうの よしゆき
河野 義行 (*Kouno Yoshiyuki*)

松本サリン事件の被害者で、第一通報者でありながら犯人扱いされた苦しい体験を持つ。オウム真理教の事件関与が明らかとなり、無実が証明されるも、なぜ冤罪が起きるのか、また、マスコミのあり方などを訴え続けている。現在、犯罪被害者の支援機関であるNPO リカバリー・サポート・センター理事を務める。

<経歴>

1950年 愛知県生まれ。名城大学理工学部卒業。

1976年 豊橋から松本市に転居、結婚。

1994年 6月に「松本サリン事件」に遭遇。自宅付近からサリンが発生していることから、長野県警の家宅捜索、事情聴取を受け、マスコミからも容疑者扱いされ、大きく取り上げられる。身の潔白の証明と名誉回復のため、日本弁護士連合会の人権擁護委員会に人権救済を申し立て、また地元新聞社に対して民事訴訟を起こす。

1995年 「地下鉄サリン事件」が期せずして発生、オウム真理教による事件関与が明らかになり、無実が証明される。国家公安委員長、長野県警本部長、マスコミ各社が相次いで謝罪し、その後、社会復帰。

2002年 7月から2005年7月まで長野県公安委員長を務める。

<著書>

『足利事件 松本サリン事件』（菅家利和氏との共著）

『命あるかぎり - 松本サリン事件を超えて』

『「疑惑」は晴れようとも』

『妻よ!』

『松本サリン事件』

など

【問合先】

桂川町人権センター（社会教育課 隣保・人権同和教育係）

☎ 65 - 1187